

第1回大船渡市防災学習ネットワーク運営協議会 議事要旨

開催日時	令和4年3月28日（月）午後1時30分～午後3時30分
開催場所	大船渡市防災観光交流センター 会議室
出席者	12名 （柴山明寛委員、鈴木弘委員、金野律夫委員、齊藤賢治委員、首藤進悟委員、長澤敏之委員、管野賢委員、武田英和委員、今野勝則委員、鈴木満広委員、阿部博基委員、遠藤和枝委員）
欠席者	1名（佐々木康人委員）
事務局	防災管理室 江刺室長、及川次長、清水主幹、今野係長、吉田主事補
議題（案件）	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 委員等紹介 3 委嘱状交付 4 市長あいさつ 5 説明 <ol style="list-style-type: none"> (1) 大船渡市防災学習ネットワーク形成基本計画について (2) 大船渡市防災学習ネットワーク運営協議会設置要綱について (3) 施設・団体の紹介について 6 協議 <ol style="list-style-type: none"> (1) 会長及び副会長の選出について (2) 今後の連携の在り方について (3) その他 7 その他 8 閉会
資料	<ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・委員名簿 ・資料1 大船渡市防災学習ネットワーク形成基本計画 ・資料2 大船渡市防災学習ネットワーク運営協議会設置要綱 ・資料3 施設・団体の紹介について ・資料4 今後の連携の在り方について

議 事 要 旨

1 開 会

2 委員等紹介

3 委嘱状交付（市長から交付）

代表受領 金野律夫委員

4 市長あいさつ

5 説 明

(1) 大船渡市防災学習ネットワーク形成基本計画について

(2) 大船渡市防災学習ネットワーク運営協議会設置要綱について

・事務局から説明し、意見等はなし。

(3) 施設・団体の紹介について

・各施設・団体から資料の説明

6 協 議

(1) 会長及び副会長の選出について

・会長の選出方法 事務局案 柴山明寛委員を選出

・副会長は会長が指名 鈴木弘委員を指名

(2) 今後の連携の在り方について

・質問・意見等については下記のとおり

○柴山明寛会長

・協議会は何を目指すのか、今後どういうふうに継続していくか、目標が必要だと思うが事務局はどう考えているのか。

→事務局

・各施設・団体で効果的な取組が行われており、それらを相互に紹介、内容把握、補完できるような取組を連携しながら高めていきたい。目標は津波災害などで人が犠牲にならないことだが、津波伝承や防災学習が文化として、それぞれの生活に溶け込むことが必要だと思う。

○鈴木弘委員

・協議会は年何回の開催で次回はいつなのか。協議会に予算はあるのか。

→事務局

・協議会は年2回程度を予定しているが、検討状況などにより随時開催することになる。次回は5月頃に開催を予定している。協議会の事業費として、予算措置はしていないので、必要に応じて補正予算により対応したい。

○柴山明寛会長

・補正予算はいつから使えるのか。

→事務局

・9月補正になると思う。

○齊藤賢治委員

・震災当日の防災放送だが、大きな波がきているときに「津波情報第〇号 ただいま大津波警報発令中、高台に上がれ」という放送をしているが、そういう放送では困る。

- ・震災時の調査で、70%以上の方が逃げていれば助かったのではないかと考えている。公民館での防災学習など、防災意識を高めるようなことを具体的に行ってほしい。

→事務局

- ・災害時の対応は市として取り組むべきことだと思う。防災学習ネットワークは、行政と市民が共に手を携えて、ゆるく長く教訓をつなぐための仕組みとして立ち上げた。皆さんから取組の紹介をしていただいたが、効果的で喜ばれている事業を取り組んでおられるが、その取組をできるだけ長く、また、一団体ではできないこともネットワークでつながることにより、より幅広く効果的にできるのではないかと考えている。

○柴山明寛会長

- ・大船渡市の教育として期待するところは何か。

→遠藤和枝委員

- ・小中学校については、復興教育と防災学習の2本立てで進めている。防災学習館の活用も必要だと考えており、各学校それぞれの取組のほか、ネットワークの情報を各学校にお知らせして、学習を効果的、効率的に行うことができたらいいいと考えている。

○柴山明寛会長

- ・観光面で防災学習ネットワークに期待するところは何か。

→今野勝則委員

- ・表立って観光のために津波をとというのははばかれるが、実際にはどこの地域でもそういうことを通じて防災につなげていく取組が進んでいると思っている。
- ・沿岸地域の市町村との連携が大事になると思うので、他の市町村とつないで、ツアーを作ったり、泊まったり、滞在時間を長くしたりしていきたいが、どのようにすればいいか試行錯誤している。
- ・防災学習だけではなく、楽しむ部分と組み合わせることも非常に大切だと思う。

→柴山明寛会長

- ・防災学習だけで、ずっと滞在するのは難しいので、大船渡市の魅力を知ってもらって、その中に防災が関わっている部分もあれば、併せてみていただくことが必要だと思う。
- ・陸前高田市の伝承館には、道の駅の効果もあると思うが、49万人が来場しており、そのうちの何割かの人には、大船渡に来ていただき、防災を学んで帰っていただく必要がある。大船渡市には宿泊施設も多くあるので、それらも活用できれば一番いい。

○首藤進悟委員

- ・魚市場は、どこにでもあるので旅行会社などから話がきやすい面があり、被災地であることから震災のことが聞きたいとの要望がある。
- ・修学旅行の受入だが、魚市場だけでの対応は難しい部分があり、人数によっては断っている状況であるため、そういった場合に他の施設へ誘導することができればいい。
- ・現在はコロナ禍でもあり、対応する人数を50人程度に絞っており、見学等は無料で対応している。

○長澤敏之委員

- ・博物館では、市内の小中学生等の防災学習ができると紹介しており、今年度も行っているが、すべてが防災学習ではない。シアターや写真、パネルなどを見ていただいて、防災に関しての知識を学んでもらい、博物館に来て津波のことを勉強してよかった、

次に津波が来たときは逃げなければならないというように意識を高めてもらいたい。学芸員が2人いるが、学芸員の仕事は防災学習だけではないので、他の仕事を行いながら限られた範囲の中での活動になる。

→柴山明寛会長

- ・シアターは多くても30人くらいだと思うが、100人くらい来た時の対応はどうしているのか。

→長澤敏之委員

- ・100人くらいの場合は、30人ずつのローテーションで対応しているので、そのことを事前に伝えて了解をもらっている。

→柴山明寛会長

- ・一つの施設だと人数に制限があったりするので、他の施設と連携しながらネットワークとして対応することもできるかもしれない。

○金野律夫委員

- ・防災学習館は、陸前高田の津波伝承館などと違った目標をもって活動していく必要がある。その中で地域の人たちとの協力体制が維持できるかが問題であり、これから自分たちで作り上げていくことになり、やることもどんどん変わっていくと思うので、それに対応していく必要がある。

→柴山明寛会長

- ・防災学習館は、漁村センターを使って展示等を行っており、今までにないようなものとなっている。

○齊藤賢治委員

- ・大船渡津波伝承館は電話を撤去しており、お客さんとの連絡方法はメールのみとなっており、私からの返事で電話番号を教えて連絡をもらうようにしている。
- ・津波の映像を作ったので説明を頑張っており、皆さんにも活用いただければありがたい。ユーチューブに載っているものが、400万件のビューがあり、実際に話を聞きたいとのオファーもある。
- ・予約受付をネットワークでやってもらえれば、申し込みしやすくなるのではないか。
- ・資料には、防災センターのところに支援とあるので、伝承館にも支援をしてほしい。

→柴山明寛会長

- ・受付業務を一元管理することがいいことかもしれないが、おおふなぼーとの指定管理業務には入っていない。指定管理者で予約受付等を担っていただけると調整に苦労しないが、業務としてはかなり負担が大きい。市がコーディネート業務を行うと説明があったができるのか。

→事務局

- ・将来はおおふなぼーとの指定管理者にお願いしたいと考えているが、指定管理業務に含まれていないので当面は市が行うこととする。

→鈴木弘委員

- ・コーディネート業務はかなりの負担になる。現在、指定管理料を値切られている状況である。コーディネートは人材だと思うので、人材面について育成を含めて考えてほしい。

- ・個々の施設のパンフレットはあるが、防災学習ネットワークのパンフレットがない。これをやるための手立てや役割、予算がなければ進まないと思う。市としてのやる気が感じられない。

→事務局

- ・今日はネットワークの事業計画等を示すことができなかつたのでお詫びする。皆様から活動や課題等を示していただいたが、他と比べて当市の強みは皆様が取り組んでいるソフト面や関わっている人の力だと思う。ネットワークを通じて、より持続的、効果的に続けていくことがネットワークの役割だと思う。そのためには、コーディネートの役割がカギになると改めて認識したので、今後考えをお示しできるように努めてまいりたい。

→柴山明寛会長

- ・市としてコーディネート業務を整理していただき、次の協議会に示してもらいたい。
- ・ネットワークのホームページが必要ではないか。
- ・消防署にも展示パネルがあるとのことだが、これを活用できないか、防災センターという施設の活用ができないか、何かアイデアがないか。

→菅野賢委員

- ・消防の関わりとして、体験型のイベント等の協力はしていきたいと思っている。
- ・今年は県の総合防災訓練が気仙地区で行われるので、防災に携わった方たちが来ると思われるので、その方たちへの宣伝や広報など行い、その方たちに来ていただくことで広がるのではないか。

○鈴木弘委員

- ・観光物産協会でモニターツアーの際にアンケートを行った。その中で防災学習館での見学の後、関連する体験があればよいとの意見があったことから、2回目には震災時の食事を提供することとしていた。防災学習館の説明を含めて有償にした方がよい。その方がやる気がでるし、レベルが上がると思う。
- ・もう一つの意見として、防災学習館は説明のおかげで非常に濃い内容に感じたが、説明がないと興味を引きにくいと思うとのことだった。
- ・ツアーが来た場合を考えて、ネットワークにガイドの会に入ってもらうことが必要ではないかと思う。

→金野律夫委員

- ・小学生への対応、観光客への対応など、様々なパターンへの対応が必要だと思う。

○柴山明寛会長

- ・資料 11 ページの防災学習館の発展期はいつを考えているのか。

→事務局

- ・発展期の明確な期日の設定はない。皆様の意見をクリアしながらいつくらいになるのか示していければいい。

→柴山明寛会長

- ・本来はある程度期日を提示していく必要がある。

○柴山明寛会長

- ・アーカイブスは誰が入力するのか。

→事務局

- ・基本的に市がコンテンツを増やしていくことで考えているが、現在コンテンツが不足している。皆様にもアーカイブスに入力できる権限を与えてコンテンツの充実を図っていきたい。入力に係るガイドラインについては、別にお示ししたいと考えている。

(3) その他

- ・議事録を委員に共有することは最低限行ってほしい。また、本協議会を市民等に広く周知するため、会議の資料や議事録をウェブページに公開してほしい。

7 その他

特になし

8 閉 会

以上